

横浜市立下野庭小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

| 共通取組 重点取組 | 平成25年度 | | |
|----------------------------|---|--|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○子どもが学習の主体となるような「わかる授業」づくりを進め、自主的・自律的に学習に取り組む姿勢を育てます。 | ・校長先生を中心として算数の重点研究を行い、子どもたちが進んで取り組むための学習内容や教材、授業展開の工夫により、子どもが自主的・自律的に学習に取り組む姿勢が育ってきている。 | A ⓐ C D |
| 2 豊かな 心 | ○学校生活全般を通して、気持ちのよい挨拶ができ、礼儀正しく、思いやりや感謝の心をもつ子を育成します。 | ・学校スタンダードの確認やルールの徹底、あいさつなど心がけた。個人差や学年差はあるが、挨拶が進んでいく児童がふえてきた。 | A ⓐ C D |
| 3 健やかな 体 | ○心と体の健康を守ることに関心をもち望ましい生活習慣を身に付け、自他の生命を大切にすることを育てます。 | ・ジャンピングタイムの取組で運動をする児童が増えてきた。安全や清潔についての継続指導の結果、子ども達の意識が高まった。ようである。人権週間では人とのつながりを意識する取り組みを行った。 | A ⓐ C D |
| 4 特別支 援教育 | ○校内委員会の設置、校内研修会の実施等、校内支援体制を整え、職員会議などを活用し、配慮が必要な児童に対して全職員が共通理解をしていく機会を設けます。 | ・児童支援先任の先生を中心として、全職員で児童を見守っていく体制ができていた。研修も実施され支援の仕方について学ぶことができた。 | A B C D |
| 5 教育課 程・学 習指 導 | ○重点教育(算数)の取組を通して、板書、発問等の指導法を工夫し授業改善するとともに、はまっ子学習ドリルの活用を図り、学力の向上を目指します。 | ・重点研究を通して授業力が向上し、授業の質を高め、児童の理解も深まった。はまっ子ドリルの活用も高めた。 | A B C D |
| 6 地域連 携 | ○学校説明会、懇談会、まち懇等の機会に学校経営方針や目指すべき児童の姿等を説明し学校への理解を深めます。また、地域行事に積極的に参加し保護者や地域の方々と交流を深めます。 | ・学校説明会やまち懇談会では、児童の姿を説明し、校内の様子やお知らせなど情報を発信した。 ・マーチングは地域のお祭りにほとんど参加し、地域行事に積極的に参加し交流を図れた。 | A ⓐ C D |
| 人材育 成組 織運 営 | ○メンターチーム研修を充実させ、中堅、ベテラン教員の授業も参観するなどし、学習と生活指導双方の実践力を高めます。 ○組織的に対応していく意識を高める研修を実施していきます。 | ・中休みなど児童との関わりを進んで行う教員が多くなった。 ・メンターチームで研修を行い、授業のふり返りをした。組織的に対応する手段や場合を知りみんなで助け合う意識を再確認した。 | A ⓐ C D |

| | |
|---|---|
| 小中一貫 教育推 進ブ ロック 内相 互評 価結 果 | あいさつ運動を毎月行っていることに対して、とてもよい取り組みであり、中学校での活動にも生かされている。また、ジャンピングタイムにおける体力向上についてもよい活動であると評価された。児童指導専任が設置されたことにより、小中の連携がスムーズになり、一貫した指導がとれるようになり、きまりなどを徹底することができるようになった。 |
|---|---|

| | |
|-----------------------|---|
| 学校関係 者評 価結 果 | ・算数科の授業を通して昨年度に比べて先生方の指導力が向上している。 ・挨拶が少しずつ定着してきているが、地域の方へのあいさつが不足している。 |
|-----------------------|---|

| | |
|---------------------------|---|
| 評価結果 に対する 学校の 見解 | さらに小中連携を深めるとともに学校関係者評価を検討する。次年度も学校経営方針や教育活動を学校説明会、まちの懇談会及びホームページ等で発信していく。 |
|---------------------------|---|

| | |
|--------------------------|--|
| 学校経営 中期目 標達 成状況 | ・互いに認め合える子の育成を目指し、重点研究の算数科の授業を通して授業力の向上を図り、成果が見られた。 ・ジャンピングタイムで縄跳びが定着してきた。今後も引き続き体力向上を図っていく。 ・様々な場面であいさつや思いやりの心を引き続き育てていく。 |
|--------------------------|--|

| 共通取組 重点取組 | 平成26年度 | | |
|---------------------------|--|---|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○重点研の算数を中心に、子どもが学習の主体となるような「わかる授業」づくりを進め、自主的・自律的に学習に取り組む姿勢を育てるとともに、基礎基本の定着を図ります。 | 課題に対して自力解決し繰り返していき一連の学習方法が身につく、学習を自主的に進めるようになってきた。事前研や学年研等で、授業の進め方や指導法について検討を重ね、基礎基本の定着に努めた。 | A ⓐ C D |
| 2 豊かな 心 | ○全校で行っているあいさつ運動を継続するとともに、自他を大切に、思いやりや感謝の心をもつ子どもを育成します。 | 挨拶については、個人差や学年差が見られ十分定着していない。習慣として挨拶が身に着くよう継続指導したい。縦割り活動では、高学年が低学年の面倒を見る場面が多く見られ児童の育ちを感じた。 | A ⓐ C D |
| 3 健やかな 体 | ○休み時間の「ジャンピングタイム」を通して、体力の向上を図ります。 ○学校保健委員会を通して、歯の健康についての意識を高めます。 | 「ジャンピングタイム」を通して、運動を楽しむ子どもが増えたが主体的に参加できるようにしたい。給食後の歯磨き以外にも歯磨きの習慣が身につく、歯科巡回指導ではよい結果を残した。 | A ⓐ C D |
| 4 特別支 援教 育 | ○校内委員会の設置、校内研修の実施等、校内支援体制を確立し、職員会議などを活用し、配慮が必要な児童の共通理解を図るとともに、個に応じた支援ができるように努めます。 | 職員会議や打ち合わせ等で情報交換を行い共通理解を図った。Y-P アセスメントシートを活用し、学年で支援の方法について考え生かした。配慮が必要な児童の対応の仕方を共有して支援する大切さを感じた。 | A ⓐ C D |
| 5 教育課 程学 習指 導 | ○重点研究(算数)の取組を通して、板書、発問等の指導法を工夫し、授業改善に一層努めます。朝学習や家庭学習等で、はまっ子学習ドリルを進んで活用し、学力の向上を図ります。 | 重点研究の取組を通して、算数の学習で培った力が他教科の授業へ広がり、話し合いやノートのとり方などに生かされた。はまっ子学習ドリルの活用を継続し、学力の向上を目指したい。 | A B C D |
| 6 児童 生徒指 導 | ○「下野庭スタンダード」を周知し、すべての子どもたちが落ち着いて学校生活ができるように努めます。いじめ防止基本計画をもとに、職員間の情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応に努めます。 | 「下野庭スタンダード」を全職員で周知し、職員間の情報交換を密に行った。確認やルールの徹底を図ったことで児童は落ち着いて学校生活を送っている。Y-P アセスメントシートや児童アンケートを通して見取りのズレについて話し合い深めた。 | A ⓐ C D |
| 7 地域連 携 | ○学校説明会、懇談会、まち懇等の機会に学校経営方針や目指すべき児童の姿等を説明し学校への理解を深めます。また、地域行事に積極的に参加し保護者や地域の方々と交流を深めます。 | 2回行った学校説明会やまち懇等を通して、学校の教育方針や年度の反省等を保護者や地域の代表に伝え、理解を深めることができた。地域防災訓練や夏祭り等、積極的に参加し、交流することができた。 | A ⓐ C D |
| 人材育 成組 織運 営 | ○メンターチーム研修を充実させ、中堅、ベテラン教員の授業も参観するなどし、学習と生活指導双方の実践力を高めます。 ○組織的に対応していく意識を高める研修を実施していきます。 | 年間を通して、定期的に研修会をもったり「授業参観週間」を設けたりし、研修方法を工夫し充実した研修となった。年次研修も互いに見合い、教員の授業力につながった。 | A ⓐ C D |

| | |
|---|--|
| 小中一貫 教育推 進ブ ロック 内相 互評 価結 果 | ブロック内でキャリア教育の系統性を見直してことで、各校の教育活動の特色がより明確となり、互いのよさを共有することができた。また、今までの小中一貫の取組の中に相互評価を取り入れることで、それぞれの活動の精度を高めることにつなげた。学力向上を図るため、横浜市学習状況調査の各校のプロフィールを分析し課題を明確にして系統性を検討し合った。 |
|---|--|

| | |
|-----------------------|--|
| 学校関係 者評 価結 果 | 学校内が落ち着き、子どもたちがしっかり学習している。挨拶がより定着するようになり取り組んでほしい。地域の運動会やお祭りに子どもたちがたくさん参加している。今後も継続的に参加してほしい。学援隊の人に子どもたちの見守りをしてもらい、安心して登下校ができた。 |
|-----------------------|--|

| | |
|---------------------------|--|
| 評価結果 に対する 学校の 見解 | 学校関係者や保護者からは、学校の取組について概ね理解を得られている。挨拶については学校だけでなく保護者にも働きかけたり、取組の方法を工夫したりしていきたい。また、子どもの自己肯定感が高まるように、支援の共有化を図ってほしい。評価項目を検討していきたい。 |
|---------------------------|--|

| | |
|--------------------------|---|
| 学校経営 中期目 標達 成状況 | ・重点研究や研修会を通して、職員の授業力の向上が見られた。「わかる授業」に向けてさらに力を高めていきたい。 ・「下野庭スタンダード」を基に教職員の意識の統一が図られてきた。引き続いて取り組んでいく。 ・自ら進んであいさつができる子を目指して、引き続き取り組んでいきたい。 |
|--------------------------|---|

| 共通取組 重点取組 | 平成27年度 | | |
|---------------------------|--|---|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ○学習状況調査の結果を基に、学年内でつきたい力を明確にし、子どもが主体的に学習に取り組める力を育てます。「わかる授業」づくりを進め、基礎基本の定着を図ります。 | 各学年の取組を年度途中で振り返ったことで、基礎基本の定着につなげることができた。単元によっては習熟度別の学習方法をとるなど実態に応じて、柔軟に取り組んでいく必要を感じた。 | A ⓐ C D |
| 2 豊かな 心 | ○あいさつ活動を継続し場に応じたあいさつができるように育てます。縦割り活動を充実させ、思いやりや感謝の心をもち自分のよさにも気付ける子どもを育成します。 | あいさつの学級目標をつくり、振り返る機会をつくったことで、児童の意識が変わってきている。より取組を工夫していきたい。縦割り活動は内容や方法を検討し、より充実させていきたい。 | A ⓐ C D |
| 3 健やかな 体 | ○新体力テストの経年変化を基に、児童の体力を分析し、学校保健委員会が体力向上の取組を行います。「ジャンピングタイム」を推進するとともに休み時間に意欲的に運動できるように取組を進めます。 | 「ジャンピングタイム」や学校保健委員会の取組等を工夫したことで、外遊びの習慣が身についたことが児童の支援に役立った。児童の情報交換を丁寧に行い、共通理解に努めた。関係機関とも連携し、よりよい解決方法を考え、個に応じた支援に努めた。 | A ⓐ C D |
| 4 特別支 援教 育 | ○校内研修を実施し、個に応じた支援方法を学び、適切な対応ができるように努めます。打ち合わせや職員会議などを活用して、配慮が必要な児童の理解と対応の仕方について共通理解を図り、必要に応じて関係機関とも連携し支援に努めます。 | 講師を招いての校内研修や療育センターの先生のコンサルテーションを受け、学んだことが児童の支援に役立った。児童の情報交換を丁寧に行い、共通理解に努めた。関係機関とも連携し、よりよい解決方法を考え、個に応じた支援に努めた。 | A ⓐ C D |
| 5 教育課 程学 習指 導 | ○中・高学年の教科担任制や中学年の算数少人数指導を行い、指導の充実を努めます。 ○学年全体で計画的に朝学習や家庭学習等ではまっ子学習ドリルを活用し、学力の向上を図ります。 | 高学年の教科担任制や中学年の算数少人数指導により、指導の充実が図れた。重点研究を通して、算数の指導方法を学び指導力が向上した。算数のノート指導を通して、ノートのとり方が上達した。はまっ子学習ドリルの活用を計画的に活用したい。 | A ⓐ C D |
| 6 児童 生徒指 導 | ○「下野庭スタンダード」を周知し、すべての子どもたちが落ち着いて学校生活ができるよう推進します。いじめ防止基本計画をもとに、職員間の情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応に努めます。 | 「下野庭スタンダード」を基に学校の決まりを意識づけ、児童指導に努めた。問題の発生した学年には、全職員で関わり支援に努めた。報連相を基に個や集団に応じて対応し、いじめに対しては早期発見に努めた。 | A ⓐ C D |
| 7 地域連 携 | ○地域の資源や教育力を活用し、様々な人とのつながりから豊かな学びをつくっていきます。地域行事に積極的に参加し保護者や地域の方々と交流を深めます。 | 総合的学習で新たに地域とつながりができ広がった。来年度は、コーディネーターと上手につなげていきたい。夏祭りや防災訓練、しものばっ子祭りに参加し、保護者や地域の方々と交流に努めた。 | A ⓐ C D |
| 人材育 成組 織運 営 | ○メンターチームの研修を計画的に行い、互いに研鑽し合いながら授業力や学級経営力を高めていきます。キャリアステージに応じた目標設定に基づき組織的に教師力を高めることができるようにしていきます。 | 講師を招いての道徳の授業研究会を開いたことで、指導のポイントを理解し、多くのことを学んだことで、指導力を高めることができた。「授業参観週間」を設けたり互いに授業を見あつたりした。先輩教員からの助言を受け、充実した研修会となった。 | A ⓐ C D |

| | |
|---|--|
| 小中一貫 教育推 進ブ ロック 内相 互評 価結 果 | 小中合同での協議会を年3回実施し、分科会ごとに授業実践や児童生徒の実態について話し合いを行うことで相互理解を深めることができた。小中での交流活動も定着し、小中のつながりを意識して活動できた。次年度以降は、小学校同士のつながりをさらに意識することや研究協議の分科会の持ち方について検討し、小中一貫教育をさらに進化させていく必要がある。 |
|---|--|

| | |
|-----------------------|--|
| 学校関係 者評 価結 果 | 「おかえりなさい」という「ただいま」と言えるようになってきた。あいさつ運動が身についてきていると感じる。地域でも声をかけていきたい。学校ホームページが充実してきている。見るのが楽しみになった。地域には学習支援ができる人がたくさんいるので、どのようなことをしたらいいか声をかけてほしい。 |
|-----------------------|--|

| | |
|---------------------------|--|
| 評価結果 に対する 学校の 見解 | 学校評価から学校関係者や保護者からは、おおむね理解を得られている。新たな取り組みも多く、実績が上がって初めて評価になるため、学校便りや学校ホームページ、学校説明会等を充実させるように広報活動に力を注いでいきたい。学校運営に職員がより参画し、より良い学校づくりとなるように努めたい。 |
|---------------------------|--|

| | |
|--------------------------|---|
| 学校経営 中期目 標達 成状況 | 今年度は昨年度の反省を踏まえ、様々な取り組みを行ってきた。体力づくりの仕掛けづくり(ジャンピングタイム・学校保健委員会・中体みスポーツ・マラソンクラブ)、あいさつ運動、幼保小の連携事業、学校・地域コーディネーターの導入等、が軌道に乗り少しずつ成果をあげてきている。来年度は、それぞれの取組継続し、より成果が上がるように努めていきたい。 |
|--------------------------|---|